

家庭料理研究・編集通信 No.1 (2014.10.15 配信)

家庭料理研究会では、聞き書き調査研究が進んでおり、本として出版する事も同時に進めて参りました。これからは両方が進んでいくことになります。家庭料理委員会では、月一回、家庭料理研究・編集通信（略称：家庭料理通信）を配信することに致しました。本の出版・編集に関しては、農文協の遠藤様、中田様と密に連絡を取りあっております。家庭料理研究・編集通信により、全国の家庭料理研究進捗状況や編集に関する質問等も共有していきたいと思っております。

今回の通信は最初の配信となりますので、長い通信になってしまいました。ご意見は支部責任者経由で家庭料理研究・編集委員会 (voice@jscs.ne.jp) にいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

1. 委員会活動報告

- 1) これまで日本調理科学会の家庭料理研究委員会（無期限）として 5 名の委員がいます。長野宏子（委員長）、中澤弥子（副委員長）、東根裕子、福留奈美、増田真祐美です。
- 2) 農文協書籍刊行に向けて、家庭料理研究委員会の委員 5 名が兼務する「家庭料理編集委員会」を発足しました。それに伴い、予算や業務区分を明確にする場合は委員会名を区別して、日本調理科学会の研究委員会を「家庭料理研究委員会」、農文協書籍刊行のための編集委員会を「家庭料理編集委員会」とします。重複する業務が多くありますので、通常は「家庭料理研究・編集委員会（略。家庭料理委員）」としてご連絡等をさせていただきます。
- 3) 日本調理科学会の家庭料理研究委員会は、聞き書き調査研究の報告として H24・25 度・H26 度の報告書・全国調査資料リスト作成、H27 度全国料理リスト作成を全国の調査研究員の先生方と協力して行います。その聞き書き調査研究の成果を最大限に生かすように、家庭料理編集委員会と各都道府県の編集委員は協力して農文協書籍刊行を準備していきます。
- 4) 家庭料理研究・編集会議を農文協にて、9 月 11 日（第 1 回）、10 月 2 日（第 2 回）に行いました。
- 5) H26 年度「家庭料理研究委員会」の研究費の振込みを 9 月 26 日に 6 支部に行いました。

2. 研究報告関係および編集作業の進捗状況

- 1) 研究委員会の報告書
 - ①H24・25 年度報告書発送済みです。
 - ②H26 年度報告書・調査資料リスト・料理リストの入力フォームは、調理科学会ホームページの活動報告ページからダウンロードできます。ご利用ください。
 - ③名簿更新は、支部責任者（県責任者経由）からの情報受理次第、名簿の更新をしております。
調査研究員の追加登録が、2014 年 8 月以降に神奈川（2 名）、茨城（2 名）、山梨（2 名）、静岡（6 名）、愛知（1 名）、岐阜（1 名）がありました。
- 2) 書籍刊行にむけて、47 都道府県がそれぞれ編集作業を進行します。先行県の進捗状況報告を随時行います。
- 3) 2015 年度内に刊行を目指す先行 5 県（長野、兵庫、愛知、広島、岩手）に、福岡県（九州支部から 1 県ということで）が追加となりました。
- 4) 兵庫県では、料理リスト作成が終っており、11 月に料理選定のための編集会議を農文協編集担当とともに行います。

3. 研究・編集ガイドラインの追加・変更内容

- 1) 平成 26 年度『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』調査ガイドライン（2014/10/1）を更新しました。
- 2) 農文協書籍刊行に向けての編集要綱についても、随時お知らせしていきます。
- 3) 調査者番号（報告書掲載）について。調査員の追加登録をされる場合、H24-25 度に登録済みの方は先に取得した調査者番号で統一してください。新たに登録される場合は、参加する都道府県で新しい番号をふってください。（H24-25 調査資料リストで使用開始されているため）
- 4) H26 度聞き書き調査報告書の地域区分について、異なる食文化圏を加えるために昨年度申請した調査報告地域の数を増やしたいというご要望がありました。家庭料理研究委員会で検討いたしました。昨年からお願いしているとおり、昨年度申請した調査地域区分で H26 年度聞き書き調査報告書の作成をお願いいたします。報告書そのまゝが本となるわけではありません。本の地域区分については、報告書に加えて新たな食文化圏の地域を入れたものとして、再度お考えいただいて結構です。

4. 配信・受信・ホームページ公開状況

- 1) 家庭料理研究・編集委員会からの配信内容を一覧にしてお知らせします。配信（支部）は支部責任者宛てに、配信（支部・県）は支部責任者および県責任者宛てに、配信（支部・県・副）は支部責任者、県責任者および県副責任者宛てに配信したものです。
- 2) 全国からの返信状況、ホームページへの情報公開状況なども適宜報告します。
- 3) 2014 年 8 月 3 日 「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理調査についての家庭料理委員会から二つのお願い（追加募集および副責任者選出）を配信（支部・県）しました。
- 5) 2014 年 7 月 23 日 「6 月勉強会報告等（2014/07/23 長野）」を配信（支部・県）しました。＜20140601 説明資料（長野県料理リスト）.pdf＞＜20140714(提出)全国調査文献リスト.xlsx＞＜20140723 勉強会報告（最終版）.pdf＞＜家庭料理聞き書きによる料理リスト（テンプレート）.xlsx＞以上 4 点添付。
- 6) 2014 年 9 月 1 日 「一斉メール配信テスト」を配信（支部・県）し、全支部から受信確認の連絡を受けました。
- 7) 2014 年 9 月 9 日 「勉強会報告（2014/09/09 長野）」を配信（支部・県）しました。＜20140829 勉強会報告等（20140908 発信）.docx＞＜20140601 説明資料（長野県料理リスト）中澤先生.pdf＞＜20140829 配布資料（勉強会内容概略）最終.docx＞＜20140829_配布資料（料理リスト・目次作り）最終.docx＞＜20140829 「日本の家庭料理」の進め方について.doc＞＜20140829 勉強会ご意見&質問（20140908 最終）.docx＞＜長野県版目次.doc＞以上 7 点添付。
- 8) 2014 年 9 月 16 日 「研究費の支部振込先問合せ」を配信（支部）し、全支部より連絡を受けました。
- 9) 2014 年 9 月 25 日 「刊行時期アンケートおよび調査地域区分のおたずね」を配信（支部・県・副）しました。＜アンケート[発行時期希望・地域区分]20140925 配信.docx＞＜高知県調査地地図（201409 現在）.pdf＞＜本の調査地域区分案（〇〇県）Vol 1.xls＞以上 3 点添付。
- 10) 2014 年 9 月 26 日 研究費の振込み報告と平成 24-25 度報告書の購入についてのお知らせを配信（支部）しました。
- 11) 2014 年 10 月 15 日 「家庭料理研究・編集通信 No. 1」を配信（支部・県・副）します。＜都道府県別責任者一覧 20141015.xlsx＞以上 1 点添付。

5. 通信・システムに関する情報

- 1) 情報の配信や PC 設定、システム変更に関する情報を報告します。
- 2) 「家庭料理研究・編集通信」を当面の間、毎月中旬に配信します。配信元は、家庭料理研究・編集委員会 (voice@jscs.ne.jp) です。
- 3) 「家庭料理研究・編集通信」は、全国に配信後、調理科学会ホームページに随時アップしていきます。
- 4) 2014 年 9 月中旬までに家庭料理メルアドにお送りいただいた一部のメールが、委員会委員の一部で確認できないトラブルがありました。原因がわかり解決しました。行き違いのあった先生方にはご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

6. Q&A コーナー

- 1) 家庭料理メルアドや勉強会時に寄せられた質問に対する回答を共有します。今まで頂いた質問と答えです。

◆本編集に向けて

Q. 行事食のところで、1品ではなく献立として数品を一緒に紹介するような行事食があってもよいのか？

A. 行事食は単品ではなく、数品を一緒に紹介した方がよいと思います。その際、全ての料理を料理リストに載せるのか、献立として数品を紹介して代表的なレシピのみを掲載するのか、などについては本の構成の中で決めていく事になると考えられます。

Q. 行事食については、食事、料理とは違う事柄でも背景の記載をした方がよいのでは？たとえば、柚子の利用について冬至の柚子風呂など。

A. 生活との結びつきがわかり重要な所だと思います。記載法について検討いたしますので、必要だと思われる内容については記録をお願いします。

Q. 料理リストは 100 品以上、掲載 80～100 品とあるが、特徴的な料理がそれだけの数ない県はどうすればよいのか？

A. 掲載レシピ点数が必ず 80～100 品というわけではありません。可能性のあるものをともかくリストアップしていただいて、その後、絞り込み段階で検討することになります。

Q. 本の出版は 料理リストに基づいた順番(勉強会で紹介された長野県の例)で目次が作られ構成されていくのですか。それとも、地域区分に基づいた順番(2014 年 9 月 26 日にメールで配られた高知県の例①から⑤まで)で目次が作られ構成されていくのですか。

A. 本のための目次作りは、長野県の例のように「ごはん」「おかず」「漬け物」などの料理分類で進めるのが基本パターンになると考えています。

地域区分は各県の中での特徴的な食文化圏をどう分類するかを明らかにし、そして料理の選定においてその食文化圏が網羅されているかを確認するために必要だと考えています。

また、本でも各県の食文化の特徴を解説する読み物のページは設ける予定ですし、巻末では地図索引のような形で、各県内の各食文化圏からどんな料理が掲載されているのかも示すようにしてみたいと考えています。その

ため地域区分をまとめていただくことは大切な作業だと思います。

以上が基本です。実際に郷土料理を作りたいと思ってもらうための本なので、目次作りの柱は地域別よりも料理別が基本になると思います。県によっては、副次的な項目ランクで、地域区分を使うのが適切な場合も出てくるかもしれません。これは各県の目次作りの過程で県と農文協で相談しながら進めていくことになります。

◆報告書について

Q. H24-25 度報告書で報告した地域区分内であるが、文化圏が異なる調査地を H26 度に別途報告してもよいのか？

A. 全国の調査研究員の方々に連絡しているとおり、昨年度申請した調査地域区分で H26 年度聞き書き調査報告書はお願いいたします。報告書そのままが本となるわけではありませんので食文化を加えた地域区分を本の方に反映していただきたいと思います。

7. 参考情報

1) 資料収集について、会員より貴重な情報をいただきましたので共有します。教育委員会や歴史館などに所属している各県の民族学会員にお訊ねになると、当時の食事や料理に関する調査資料を開示していただける場合があります。年中行事などは食事というよりも行事そのものの内容がよく調べられていることが多く、地域の図書館の他、民俗資料館などに「〇〇町民俗論集」として保管されています。その編集発行が〇〇町教育委員会となっていることがあります。

※このような情報を広く求めています。資料収集、料理リストアップに有益な情報がありましたら家庭料理メルアドまでご連絡ください。全国で共有いたします。

8. お知らせ

1) H24-25 年度研究調査報告書の購入を受付けています。調理科学会事務局に直接お申込みください。新しく家庭料理研究委員会の調査研究員になられた先生方、是非、ご購入下さい。

2) 刊行時期および調査地域区分アンケートの締切が 10 月 16 日です。ご協力よろしくお願いします。

9. 通信後記

平成 24-25 年度報告書作成につづき、2 回の勉強会を経てここまで参りました。今後、本編集に向けて全国で動きが出て参ります。委員 5 名で精一杯の対応をと心がけておりますが、なかなか十分にできていないのが現状です。追加募集で新しく参加される先生方もいらっしゃる中、過去の資料や経緯、進捗状況、家庭料理メルアドに寄せられる質問等を全国で共有する必要があると考え通信を発行することにしました。本通信の内容について、また報告書作成、本編集についてのご意見・ご要望をお寄せください。全国の先生方にご協力いただきながら、活発なやりとりのある委員会運営となりますよう生かして参ります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(今号担当: 福留)

以上

家庭料理研究・編集委員会 (voice@jscs.ne.jp)